

2026 年度 蘇遙会情報誌

熊本大学工学部 土木建築学科土木教室 蘇遙会

2026 年 9 月 1 日発行

令和 8 年熊本地震により被災された皆さまに
心よりお見舞い申し上げます

〔発行〕

蘇遙会事務局（月・火 10：00～16：00）

〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2 丁目 39 - 1

熊本大学工学部土木建築学科 土木教室内

Tel：096(342)3544

Fax：096(342)3507

E-mail soyoukai@kumamoto-u.ac.jp

HP <https://www.web-dousoukai.com/soyoukai/>

会費および寄付金の払い込み方法等は

HP をご覧ください→



【重要なお知らせ】

今後は、データカードの返送による登録情報変更手続きは廃止を予定しております。今年度も、登録情報の更新はホームページより各自で実施いただきますようご協力願います。

令和 7 年度 土木学会全国大会 おつかれさまでした

蘇遙会交流会報告

幹事代表 坂西 由弘（平成 18 年卒/20 年修了）
坂田 直樹（平成 22 年卒/24 年修了）

令和7年9月10日（水）から12日（金）にかけて、令和7年度土木学会全国大会が熊本大学および熊本城ホールで開催されました。コロナ禍の影響で卒業生同士の交流が減少していた中、蘇遙会会員が熊本大学に集まるこの貴重な機会を活かし、卒業生・学生・教員が世代を超えて交流し、旧交を温めるとともに新たな出会いを生む場となることを目的として、9月11日（木）にくすのき会館にて「蘇遙会会員交流会」を開催いたしました。

事前準備は、椋木教授を中心に熊本支部と東京支部が連携し、会場調整や設営計画、名簿・名札の作成などを進めました。幹事団は平成18年～31年卒の中堅・若手メンバーで構成され、学生時代に蘇遙会学生部を担った経験を活かしながら、熊大土木らしいチームワークで準備を円滑に進めることができました。学生時代の懐かしさを感じつつ、社会人としての経験も加わり、幹事同士が互いに刺激を受けながら協力できたことも印象的でした。

当日は17時頃から幹事団による会場設営を行い、18時より受付を開始しました。開会前から多くの方にお越しいただき、山尾会長の乾杯をもって交流会がスタートしました。その後は歓談を中心とした和やかな交流が続き、最終的な出席者数は62名となり、当初の目標である50名を上回る盛況となりました。20時頃には、学会運営を終えた椋木教授より代表挨拶があり、参加者への謝辞と、工学部130周年事業に向けた卒業生のさらなる協力への期待が述べられました。締めめの挨拶では熊本支部の田中氏より、熊大土木の団結力を踏まえた今後の蘇遙会の発展への思いが語られ、最後に集合写真を撮影して閉会いたしました。

今回の交流会は、世代や立場を超えたつながりを再確認し、蘇遙会のネットワーク強化に大きく寄与する有意義な機会となりました。今後も継続的な交流の場を設け、会員相互の連携と後進育成にさらに貢献できるよう活動を続けてまいりたいと考えております。



ご挨拶

蘇遙会会長 山尾 敏孝

蘇遙会の情報誌を今年も卒業生、学科長及び学生の協力で作成することができました。ご協力をいただきました皆様に感謝致します。情報誌は、卒業生と教員及び学生皆様からいただいた活動報告を掲載しておりますので、是非目を通していただき、ご感想やご意見等をお寄せいただければと思います。蘇遙会は、学生達が自主的に活動をしている組織で、土木系の卒業生と現役の学生及び教職員をつなぐ場であり、交わるきっかけを作る場であることが特徴です。しかしながら、運営委員会での学生報告からは、最近の活動が学生自身の中でかつ限られた学生達で実施されており、教職員との接触が無くなり、多くの学生を巻き込んだ交わりや親睦が十分できてない印象を受けました。蘇遙会の

本来の活動目的に立ち返り、多くの学生が参加して、教職員や卒業生と一緒に活動をしながら活性化を目指して欲しいと思います。

昨年の9月、久々に熊本大学を中心に令和7年度土木学会全国大会が開催されました。全国大会は土木学会の一大イベントであり、現学科長の椋木先生が中心になって運営され、成功裏に終了できたようです。本当にご苦労様でした。また、大会期間中に学会に出席されている卒業生の蘇遙会会員や近隣在住の会員に呼び掛けて蘇遙会交流会を開催したところ、多くの会員が集まりにぎやかに交流することができました。

また、今年は熊本地震から10年という節目を迎えました。熊本ではテレビや新聞に特集が組まれ、改めて熊本地震の被害状況とそれからの復旧・復興に至る過程や歩みを振り返り、様々な思いが報道されて

いました。熊本城跡の復旧も進んでいます、全工事が完了するのは四半世紀先になる予定です。

今年の蘇遙会運営委員会の構成は、運営委員長として今年から棕木俊文教授（学科代表）、土木教室の2年生担任は高野大樹准教授です。また、学生部は、学部3年の甲斐祐希部長、西村悠太副部長ら6名です。運営委員会は5月22日に土木系会議室にて、東京支部の坂西さん、大阪支部の後藤さん（野中さんの代理）、福岡支部の森さん、大分支部の前野さん（石和さんの代理）、宮崎支部の長尾さん、監事の宮崎さんに参加していただき、開催しました。特に、学生会の活動がより活発になるように期待したいと思います。終了後、FORICOにて懇親会を実施し、卒業生からの励ましと学生幹部の抱負が語られ、良い交わりができました。昨年の平緒優貴部長、杉本泰晟副部長らの学生部役員の皆様ご苦労様でした。

最後に卒業生の皆様にお知らせです。工学部130周年記念事業として、記念式典等が2027年10月30日に熊本城メインホールにて開催予定で、記念講演もあります。また、記念事業の募金をお願いしておりますので、皆様のご支援とご協力を是非お願いしたいと思います。

会員の皆様には、今年も蘇遙会並びに工業会のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

教室のさらなるグローバル化と 学生会組織の活性化を目指して

蘇遙会運営委員長 棕木 俊文

令和8年度より土木建築学科長および蘇遙会運営委員長を拝命いたしました棕木（平成7年度卒）でございます。卒業生の皆様には日頃より本学・本教室へのご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

まず新任教員をご紹介します。令和8年4月より助教として増田慧樹先生が着任されました。令和8年3月に東京大学にて博士（工学）を取得され、都市と交通の数理分析を専門としておられます。熊本大学では、社会基盤整備・交通渋滞・土地利用・水循環の相互関係の観測・理解・予測に関する研究の推進に強い意欲をお持ちです。今後のご活躍が大いに楽しみです。

昨年度は土木学会全国大会が熊本で開催され、その準備等もあり、

例年とは異なる多忙な一年となりました。会場キャパシティと参加者数の観点から二会場開催を余儀なくされ、巡回バスの運行や全国大会として初となるポスター発表の企画など新たな試みにも挑戦いたしました。関係者の皆様のご協力と教員間の緊密な連携により、無事故で大会を終えることができました。また大会期間中には、蘇遙会および熊本市土木部会の皆様のご協力により、学内に同窓会を開催することもできました。上半期は多忙を極めましたが、充実した時間を過ごすことができたと感じております。

熊本大学はこれまでもグローバル化に注力してまいりました。当教室においても、学生交流協定の締結、文部科学省事業における留学生優先配置プログラムの獲得、そして大学院ダブルディグリープログラムの設置（フランス・グルノーブル大学と令和8年10月開始予定）に向けて取り組んでおります。これは留学生（令和8年6月現在34名）を受け入れるのみならず、当教室の学生が海外へ留学し、グローバルな感覚を身につける機会を広げるものです。また、当教室には3年前より教室国際化ワーキングを設置し、教育研究環境の国際化を推進する活動も行っており、今年度は早速、留学生による交流会を企画してもらい、留学生34名のうち28名（中国、インドネシア、モーリタニア、チェコ出身）が集う軽食会を開催しました。このような試みは今回が初めてです。AI技術の急速な進化により世界はますます近くなっており、そうした時代に活躍できる人材を輩出すべく、当教室も引き続きさまざまな取り組みを進めてまいります。

明年は工学部130周年の佳節を迎えます。工学部として周年事業の準備を進めており、その過程で工学部の学生会ともつながりを持ちながら、企画を進めようとしています。その中心に蘇遙会学生部がなれるよう、学生部の活動にも力を入れ始めました。コロナ禍で様々な引継ぎが断たれ、蘇遙会学生部の活動規模も年々小さくなっている傾向がございます。学生会の再活性化のためにも、今年はオープンキャンパス、紫熊祭、夢科学探検などにも協力してもらい、共に土木建築学科を盛り上げていきたいと思っています。末筆ながら、卒業生の皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念しております。

〈追記〉

2026年7月28日16時27分、熊本県熊本地方を震源とする地震が発生し、宇城市・氷川町で震度7を観測しました。

卒業生の皆様の中には、ご実家やご親戚が被害に遭われた方もいらっしゃるかもしれません。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

発災当時、大学内も混乱しましたが、10 年前と比較すると被害は圧倒的に小さく、安全点検終了後には居室に戻ることができました。また、留学生を含む在学生の安否確認も速やかに完了しました。早速 8 月 1 日には、工学部公認サークル「熊助組」の所属学生が、社会福祉協議会からの要請を受けて益城町でボランティア活動を行い、活躍してくれました。その後の状況はそれぞれ異なりますが、8 月 3 日より熊本大学は通常の状態に戻っております。

当教室としても、できることをやりながら、元気に乗り越えていきたいと考えております。引き続き、卒業生の皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

寄 稿

昭和 50 年卒 同期会報告

土木工学科 昭和 50 年卒 戸塚 誠司 氏

前回の福岡開催から 6 年ぶり、卒業後 50 年の節目 2025 年に福岡・熊本在住者の有志で記念クラス会を企画しました。昭和 46 年入学生、昭和 50 年卒業生、その時期共に学んだ皆様（対象者 41 名）に呼びかけ、「熊本大学土木工学科卒業 50 周年 & ともに学んだ有志達合同クラス会」と銘打って令和 7 年 6 月 11 日(水) 熊本の地で開



催しました。遠くは茨城・千葉県から来熊、計 20 名が参加しました。

入学（参照：クラス 38 名集合写真）した昭和 46 年は高度経済成長期で日本列島改造ブーム、学内は学園紛争も収まり平常に戻っていました。卒業の昭和 50 年はベトナム戦争が終結、石油危機後の経済は高度成長から安定成長への転換期に入っていました。

クラス会は 14 時の工学部百周年記念館集合で始まり、1 号館 3・4 階の土木建築学科を訪ねて重石光弘先生から大学や土木系教室の近況について説明を受けました。その後、50 年前の施設を思い浮かべながらキャンパス内の見学巡りを行いました。宴会は熊本城天守閣を望める K K R ホテル熊本(旧五峯閣)で、17 時半受付、3 階撮影場での集合写真（参照：記念写真）、18 時に 1 階「不知火」の間で開宴しました。4 名の物故者への黙祷、開会挨拶に続いて、来賓の平井一男先生のミニ講義「速歩が 100 歳元気を可能にする」を聴講しました。一学年先輩の山尾敏孝先生には熊本大学工業会・蘇遙会の会長として来賓挨拶をいただきました。最遠参加者の発声で乾杯し、入学から前回クラス会までの記録写真スライドショーを 1970 年代前半ヒット曲の B G M で視聴しながら歓談しました。瞬く間に 2 時間が過ぎ、3 人掛りの巻頭言で五高寮歌を合唱し、最年長者の閉会挨拶となりました。その後、水道町・手取神社前レストランバーの二次会で互いの息災を願い、再会を期して解散しました。



この 1・2 年で全員が後期高齢者となります。これまで当会は熊本・福岡両県で 7 回開催してきました。今回がファイナルではと危惧する声がある一方で、まだまだ続けるぞ！という力強い声も聞こえます。

熊大土木軍団 OB ダッカから

土木工学科 昭和 60 年卒 工藤 直樹 氏

【今、ダッカが熱い】

私は 1985 年に大都工業(現みらい建設工業)に入社し、2006 年に日本工営へ転職しました。現在はバングラデシュ・ダッカに駐在し、インド、バングラデシュ、スリランカ、ネパールほか南アジア諸国の事業総括と Nippon Koei Bangladesh (<https://nkbangladesh.co.bd/en>) の経営に携わっています。

日本の ODA は、従来の東南アジア中心から、2010 年代後半以降はインドやバングラデシュをはじめとする南アジアへと重点が移っています。バングラデシュでは、国際空港、都市高速鉄道、物流港湾、幹線道路、超々臨界圧石炭火力発電所、経済特区工業団地など大型インフラ開発事業が活況を呈しています。約 80 名の当社スタッフが現地で活躍しています。

日本国内では維持管理が中心となる一方、開発途上国では新規かつ大型案件に携わる機会が多く、日本の技術力と経験を活かすことができます。エンジニアとして、一国のインフラ基盤整備を担う手応えを日々感じています。後輩の皆さんにも、ぜひ海外事業に挑戦し、広い世界で力を発揮していただきたいと思います。



次男が登板する
野球の試合観戦にて

【最強の熊大土木軍団】

健康保険証のコピーと下宿までの地図、そして会費千円を握りしめて参加した新歓コンパ。会場には日本酒「美少年」の一升瓶が並び、先輩が背後に控える独特の緊張感の中、土木軍団応援団が登場。団長の「今年も優勝するぞ！」の掛け声とともに飲み始め、「工友必勝歌」で締めます。その光景は今も強く記憶に残っています。

秋の工学部大運動会は我が土木軍団最大の行事で、優勝を目指し夏から練習を重ねました。とりわけ棒倒しと騎馬戦には気合が入ります。出場者は作業ズボンに晒しを巻き、酒を吹きかけて締め直し、縄のベルトを締めた出で立ちで、必勝の覚悟で臨みます。

学びの一部は「薩摩白波」で洗い流されましたが、熊本での五年間培った仲間との絆と経験こそが、今の自分を支える原点であり、土木技術者としての礎となっています。

100 年に一度の渋谷駅再開発の礎を築いて

土木工学科 昭和 60 年卒 吉永 旭 氏

私は、昭和 60 年（1985 年）に土木工学科を卒業し、首都圏私鉄大手の東急電鉄（株）系列のゼネコンである、東急建設（株）に入社しました。今年で入社 42 年目になりますが、そのうち 25 年間は土木工事現場で施工管理業務に従事してきました。土木工事と聞くと、山間でのトンネル工事や橋梁工事、道路・港湾工事等を想像しますが、私は東京・札幌といった大都市圏での都市土木工事を主に行ってきました。最初の赴任地は札幌支店です。当時建設中の札幌市営地下鉄東豊線さっぽろ駅構築工事の現場に配属され、私の専門である都市土木のキャリアがスタートしました。当時の働き方は過酷であり、その頃の建設業は『3K（きつい、きたない、危険）』と言われていた時代です。休暇は週 1 日あれば良い方で、残業も月に 100 時間以上はあたりまえでした。しかし、この頃の厳しい経験が糧となり、その後のゼネコン人生に大いに役立つことになります。私の携わった主な都市土木工事を下記に示します。



副都心線渋谷駅の構築

私の携わった主な都市土木工事を下記に示します。

1. 札幌市営地下鉄東豊線 さっぽろ駅構築工事
2. 営団銀座線 虎ノ門改良工事（現 東京メトロ）
3. 京王初台駅改良工事
4. 東京メトロ副都心線 渋谷駅建設工事
5. 東京メトロ銀座線 渋谷駅改良工事
6. 東急東横線 渋谷～代官山間地下化工事
7. 渋谷駅基盤整備工事

表題の『100 年に一度の渋谷駅再開発の礎』とは、上記の 4～7

の工事を指しています。現在進行中の渋谷駅再開発工事は、2002年に東京メトロ副都心線渋谷駅建設工事から始まりました。

初期は土木インフラの整備が中心で、その後並行して渋谷ヒカリエ・渋谷ストリーム・渋谷スクランブルスクエア東棟・サクラステージなどの超高層ビル新築工事が完成しました。現在は J R 渋谷駅改良工事・渋谷スクランブルスクエア西棟新築工事が施工中です。渋谷駅再開発は 2034 年に概ね整備される予定ですが、この 30 年以上に及ぶ大規模再開発工事の礎を築けたことは、私のゼネコン人生において誇りであり、そして未来の渋谷を訪れる人々にとって、素晴らしい街づくりに寄与できたと感じています。

ゼネコン人生の後半は、2018 年より 8 年間にわたり東急建設の支店長として、渋谷駅再開発工事をはじめ多くの土木・建築工事に関わってきました。そして今年の 3 月末で支店長を退き、現在は顧問として最前線から一步引いた立場で働いています。



2025 年 10 月 パリ研修にて

今年度をもって東急建設（株）を退職しますが、可能であれば、ずっとずっと土木工事や街づくりに関わり続けたいと思います。

私は若いころから『ゼネコンは天職だ』と言い続けてきました。ものづくりの楽しさ、街が変わっていく姿を肌で感じること、その達成感は何ものにも代えがたい経験と楽しみだったと思っています。

大学での学びを胸に原子力と向き合う日々

土木環境工学科 平成 6 年卒/8 年修了 井下 一郎 氏

私は、平成 6 年に土木環境工学科を卒業し、平成 8 年に土木環境工学専攻を修了しました。その後、電源開発株式会社（J-POWER）に入社し、現在に至るまで全国各地で電力関連の業務に携わってきました。

学生時代は、学業に真摯に取り組む一方で、体育会アーチェリー部に所属していました。授業が終わると大江グラウンドへ通い、一生懸命練習に励みました。残念ながら大きな成績を残すことはできませんでしたが、それでも香川県出身の私にとって九州での 6 年間は非常に充実した時間であり、今の自分を形作るうえで欠かせない大切な経験となっています。

入社後は、東京、神奈川、新潟、青森といった全国各地を拠点に仕事をしてきました。特に、2005 年からは青森県で建設中の大間原子力発電所の業務に携わり、2008 年には原子炉設置許可を取得しました。その後、現場での大規模掘削やコンクリート製造の監理業務、岩盤検査対応といった貴重な経験を積むことができました。しかし、2011 年の東日本大震災を契機に原子力規制が厳格化され、現在も新しい法規制に基づく審査対応に従事しています。大間原子力発電所には、他の施設にはない自然ハザードに関する独自の課題があり、その解決には多くの時間を要しましたが、ようやく審査でおおむね理解を得ることができ、建設再開に向けて準備を進めています。私の夢は、この発電所を完成させ、日本の皆さんに低廉でカーボンフリーな電気を届けることです。

また、熊本大学の卒業生同士で「もっこす会」という集まりを作り、土木や建築の出身者が定期的に交流を深めています。このようなつながりも、熊本大学での学びが生んだかけがえのない財産だと感じています。



もっこす会メンバーとの少し昔の記念写真
(左から2番目)

一方、プライベートでは、社会人になってから雪国生活をきっかけにスキーを趣味にしました。性格的に一つのことに夢中になるタイプなので、スキーにもどっぷりとハマり、全日本スキー連盟公認のスキー指導員資格を取得するまでになりました。今では冬の楽しみの一つとなっています。

これからの目標は、大間原子力発電所を完成させること。そして、エネルギーの分野で日本の未来に貢献することです。

後輩の皆さんにも、学生生活を通じて多くのことを学び、ぜひ自分の夢を描いていただければと思います。熊本大学での経験は、きっと将来の大きな財産になるはずです。

熊本大学で得たもの

土木環境工学科 平成 7 年卒/9 年修了 永谷 英基 氏

1997 年に熊本大学大学院を修了し、鹿島建設に入社しました。最初の配属先は技術研究所で、その後は鉄道工事を中心に現場勤務を経験しました。東日本大震災後には福島第一原子力発電所において凍土遮水壁工事に携わり、これまでの人生で最も大きな使命感と緊張感を持って仕事に取り組んだ経験となりました。その後は再び技術研究所や本社で技術開発に携わり、現在はインフラの維持管理や防災分野を中心に、新しい計測技術やセンシング技術の研究開発に取り組んでいます。

学生時代を振り返ると、「勉学に励んだ」というよりも、体育会サッカー部の活動に明け暮れていたという表現の方が正しいかもしれません。練習や試合に多くの時間を費やし、大学生活の中心はサッカーでした。しかし、4 年生から大谷順先生の研究室に所属したことで、私の視野は大きく広がりました。地盤工学の知識はもちろんのこと、「世界を相手に仕事をする」という考え方や、常に高い目標を持つことの大切さを教えていただきました。当時は十分に理解できていなかったかもしれませんが、今振り返ると、その時に受けた影響が現在の自分の仕事や考え方の礎になっていると感じています。



社会に出ると、学生時代には想像もしなかったような困難や大きな責任に直面します。そのような時に支えになるのは、大学時代に培った人とのつながりや経験です。後輩の皆さんには、勉強でも部活動でも趣味でも構いませんので、何かに本気で打ち込んでほしいと思います。そして、多くの人と出会い、自分の可能性を広げてください。熊本大学で過ごし

た時間は、きっと皆さんの将来を支える大切な財産になるはずです。

水コンサルタントのススメ

環境システム工学科 平成 17 年卒/19 年修了 三迫 陽介 氏

私の学生時代は、アルバイト、サークル活動、ついでに勉強という順での重み付けでしたが、4 年生で海岸環境工学研究室に配属となってから大学院まで続けて行った、熊本港に創生された人工干潟「野鳥の池」を対象とした研究は面白く、そこから水をテーマとした就職活動を行い、(株)日水コンに入社しました。



タイトルの「水コンサルタント」とは、水道・下水道分野を専門としたコンサルタントのことであり、私は入社以来、水道分野を専門としています。私にとって水道分野を専門として良かったのは、水道事業が水道料金による独立採算で成り立っていることから、事業を経営する観点でもコンサルタントの活躍が求められていることです。浄水場や水道管路などの設計では構造力学や土質力学の知識を使いますが、私は学生時代にそれらを苦手としていました。代わりに水理学や統計、文章を書くことは好きだったことから、市内全域の水道管網に流れる水量のシミュレーションや、水道料金を検討するための財政シミュレーション、水道事業体の将来施策を立案・公表するための水道事業ビジョン・経営戦略の策定などの仕事を得意としています。私の仕事のイメージとしては、経営コンサルタントの方が近いかもしれません。

私生活では会社のサッカー部の活動に参加し、40 代の私ですが 20 代の若手に負けずに走り回っています。去年はコロナ禍以降休止していた東京と大阪のサッカー部の対抗戦を復活させ、見事そこでもゴールを決めることができました。

日水コンには近年、熊本大学の卒業生が多く入社してくれています。大学の後輩が入社してくれるのはとても嬉しく、私自身の励みにもなっています。この記事を見掛けた熊本大学在学、卒業生の方が、日水コンや水コンサルタントに興味を持っていただければ幸いです。インターンシップや会社訪問も受け付けていますので、それらの機会に是非お話しできればと思います。

土木技術者として、母として

社会環境工学科 平成 27 年卒 西山 菜緒 氏

私は 2015 年に社会環境工学科を卒業し、鹿島建設に入社しました。1～5 年次までは東京土木支店にて、シールドトンネル・ニューマチックケーソンの現場と、支店設計にて仮設設計業務を経験しました。現場では、真っ黒に日焼けしながら測量やコンクリートの打設を担当しました。6 年次で横浜支店に異動し、造成現場を経験したのち、1 年半の産休育休。復帰は都市部の山岳トンネル現場でした。大現場だったので、フレックス勤務で育児との両立も問題ありませんでした。その後、第二子の産休育休を取得し、同現場に復帰。ICT や AI を使った現場の効率化を推進しました。11 年次にあがる際、念願の地元九州への異動希望が叶い、一家で九州へ。夫は私の異動に合わせて転職してくれました。現在は、九州支店にて管轄現場の支援業務に従事しております。

学生時代はポート部に所属し、朝は 5 時から江津湖で練習に励みました。ポート競技は個人の力だけではなく、クルー全員の息を合わせることが重要であり、仲間と切磋琢磨した経験は、協調性や忍耐力を養う貴重な機会となりました。

また、3 年生からは蘇遙会の学生部に所属し、工学部運動会や紫熊祭の運営などにも尽力しました。企画の立案から当日の運営まで、多くの学生や関係者と連携しながら活動を進める中で、一つの目標に向かって仲間と協力した経験は非常に印象に残っています。

現在は九州支店土木部にて、管轄現場への技術支援や ICT 活用支援を中心に担当しております。ICT・AI 分野は日々進化しており、最新情報の収集や知識のアップデートが欠かせません。これからも常に新しい技術や情報に関心を持ち、土木の技術だけでなくいろんな分野についても積極的に学び続けていきたいと考えています。子供との時間も大切にしながら仕事にも全力で取り組み、カッコいいママを目指して頑張りたいと思います。



土と向き合い、世界へ挑む

土木建築学科土木工学 P 令和 7 年卒 嘉数 ことり 氏

私は、令和 7 年 3 月に土木建築学科土木工学教育プログラムを卒業し、同年 4 月より自然科学教育部土木建築学専攻に進学しました。

現在、修士 2 年生として椋木（環境地盤工学）研究室に所属し、日々、研究と勉学に励んでいます。椋木先生との初めての出会いはいリモート授業でしたが、画面から伝わってくる迫力が凄まじく、強烈なインパクトを受けました。土質力学の授業を通して、「土」という粒状体材料の面白さと難しさに魅了されました。現在、熊本県に分布する Aso-4 火砕流堆積物を含む地盤の動的特性に関する研究を行っています。また、研究室では留学生との交流や海外研究者との議論、国際学会への参加など、国際的なチャンスに多く恵まれています。今年の 3 月には中国・済南で開催された地盤工学に関するワークショップ“2nd GAIA”において口頭発表を行いました。6 月には、オーストリア・ウィーンで開催された第 21 回国際地盤工学会に参加し、ポスター発表を行いました。さらに、9 月にはフランスの Grenoble 大学とベルギーの Ghent 大学へ研究訪問をする予定です。国際学会への参加、海外の研究者や学生との交流を通して、自分のレベルや視野の狭さにハッとさせられることがあります。これらの気づきは自分自身のレベルアップに大きく繋がっていると感じています。私が考える大学院で学ぶ魅力は、国際的なチャンスがより身近になり、自分自身の世界や可能性も大きく上げられる点にあります。



今後は大学院博士後期課程に進学し、地盤工学を通して人々の安全に貢献できる研究者を目指します。また、日本にとどまらずグローバルに活躍できる人材へ成長できるよう努めていきます。将来、どこかで蘇遙会の先輩方と一緒に仕事ができることを楽しみにしております。また、後輩にあたる学部生の皆様とも、大学での研究活動を通じて交流できることを楽しみにしています。

最後に、蘇遙会の皆様のご活躍を祈念し寄稿させていただきます。

支部だより

支 部	担当者氏名(卒年 G:学部/ M:修士または博士前期/ D:博士後期) メールアドレス	支部報告
東 京	坂西 由弘 (G2006 年/M2008 年) sakanisy@kajima.com	東京支部では、山尾先生と学生の平緒さんを来賓に迎え、令和 7 年 10 月 4 日(土)に支部総会を開催しました。また、12 月には、蘇遙会の学生と協力して熊大で出前講義を開催し、学生と卒業生との交流を深めました。令和 8 年度は、10 月 3 日(土)に支部総会を開催する予定です。多くの卒業生のご参加をお待ちしております。
大 阪	野中 久翁 (G1991 年) byg02136@nifty.com	大阪支部は後藤支部長以下 4 名の幹事です。昨年は、11 月 29 日に土木部会の総会を、工業会大阪支部総会にあわせて開催し、12 名の参加をいただきました。工業会大阪支部総会は今後不定期開催となりましたが、土木部会の総会と懇親会は毎年 11 月開催予定で継続していますので、ご参加よろしく願います。
山 口	原田 光 (G1992 年) h3a1r4a1d5a9k2o6u@gmail.com	山口支部では最近、土木部会としての活動は行っていないですが、工業会としては毎年 7 月に地区支部長会議、11 月に支部総会を開催しています。昨年の支部総会では、山尾先生を来賓にお迎えし、参加者 31 名中、土木系会員 7 名が参加し、懇親会では巻頭言の披露や学生時代の話など盛り上がりしました。
福 岡	森 大輔 (G1995 年) mori-d0460@pref.fukuoka.lg.jp	昨年度の福岡支部土木部会では、大学から先生方や学生の皆様や支部からも多くのご出席を頂き、総勢 75 名以上の盛大な総会を開催することができました。今年度の総会 (R8.11.5)につきましても開催に向け準備を進めておりますので、多くの皆様の参加を心からお待ちしております。
大 分	石和 徹也 (G1991 年) ishiwa-tetsuya@pref.oita.lg.jp	大分支部では、工業会と連携し、4 年ごとに総会(次回は令和 9 年)を開催しており、土木系の皆様の参加をお待ちしています。 なお、総会の開催日等の情報をお知らせするため、オープンチャットを開設しており、大分在住の方は、ぜひ登録をお願いします。⇒
熊 本	大原 良隆 (G2012 年) ohara.yoshitaka@city.kumamoto.lg.jp	工業会熊本支部土木部会では、令和 8 年 5 月 30 日に熊本県内に就職・転入卒業生を歓迎する「新社会人等歓迎会」を開催しました。大学の先生をはじめ官公庁や民間企業の方など、総勢 47 名にご参加いただき、盛況のうちに閉会しました。全員参加型の催しを新たに取り入れる等、会員相互の交流を深める有意義な機会となりました。
鹿児島	坂元 圭一 (G2010 年/M2012 年) keiichi-sakamoto@pref.kagoshima.lg.jp	鹿児島支部では最近、土木部会としての活動が少ない現状ですが、例年 8 月に工業会として支部総会を実施しております。昨年度は 8 月 9 日(土)に円山教授に来県いただき、講演・懇親会を開催いたしました。今年度は 8 月 1 日(土)に開催に向けて準備を進めておりますので、多くの皆様の参加をお待ちしております。



各支部へのお問い合わせは担当者ヘメールにてご連絡ください

支 部	担当者氏名(卒年 G:学部/ M:修士または博士前期/ D:博士後期) メールアドレス
愛 媛	三好 雄也 (G2017 年) miyoshi-yuuya@pref.ehime.lg.jp
北九州	大久保 賢介 (G2004 年) kensuke_ookubo01@city.kitakyushu.lg.jp
佐 賀	岩橋 良憲 (G1999 年) iwahashi-yoshinori@pref.saga.lg.jp
長 崎	三道 チエ (G1999 年) chie.sandou@pref.nagasaki.lg.jp
宮 崎	長尾 佳介 (G2019 年) nagao-keisuke@pref.miyazaki.lg.jp

福岡支部報告

支部連絡担当 森 大 輔(H7 卒)

熊本大学工業会福岡支部土木部会では、令和 7 年 11 月 6 日に博多サンヒルズホテルにて、令和 7 年度総会を開催しました。来賓として熊本大学名誉教授の北園芳人先生、松田泰治先生、土木建築学科教授の佐藤晃先生、さらに現役学生(3 年生)から蘇遙会学生部長の平緒優貴君、渉外の古賀蒼大君にご出席いただき、幅広い世代・立場の同窓生総勢 75 名が一堂に会す盛大な総会となりました。

来賓挨拶として、北園先生からは蘇遙会の現況報告、松田先生からはご自身の近況報告、佐藤先生からは最近の大学の動向や懐かしい旧 8 号館の様子など、貴重なお話をいただきました。

総会では、右田隆雄会長(S59 卒)の挨拶に続き、新会長として植木昭光様(S62 卒)など新役員を選出し承認をいただいております。また、事務局からは『企

業に聞く卒業生ランキング(日経新聞 2025.6.11)』で、熊本大学が全国第 6 位・九州沖縄で第 1 位と評価されたことも紹介され大いに盛り上がりました。引き続きの懇親会は、最長老の参加者であります草野守夫様(S41 卒)の乾杯ご発声により開宴となりました。大学・民間・行政の参加者同士による情報交換も活発に行われ、若手と先輩の交流など世代を超えた交流の場として大変有意義な時間となり、大盛況のうちにあっという間に 2 時間余りが過ぎてしまいました。最後は、出席者全員で肩を組んで、花島正利様(S62 卒)による巻頭言から全員による工友健児必勝歌「血をすすり涙して」の大会唱により一致団結した締めくりとなりました。これからも、同窓生の皆さんが旧交を温めつつ、大学との連携や卒業生ネットワークの活性化の場となるよう、福岡支部土木部会をさらに盛り上げていきたいと考えています。

今回参加できなかった同窓生の皆さんにも、来年の総会でお会いできることを心から願っております。

◇物故者◇

2025 年 7 月～2026 年 6 月にご連絡があった方を掲載しています。

卒年は蘇遙会正会員となった卒業・修了年
()内は没年月日

■熊本工業専門学校

S23 年卒 橋本 徹 様(2024.6.15)
S24 年卒 平野 圭一 様(2025.8.31)
S25 年卒 大島 文彦 様(2024.2.24)
S26 年卒 青木 茂 様(2025.11)

■熊本大学工学部

S31 年卒 徳永 伯雄 様(2025.2.28)
S32 年卒 永田 栄亮 様(2023.6.20)
S33 年卒 坂崎 章 様(2025.6.27)
S37 年卒 大石 勉 様(2025.2.20)
S37 年卒 中原 卓 様(2024.9.20)
S37 年卒 林田 徳治 様(2025.8.14)
S38 年卒 小西 守 様(2025.7.29)
S38 年卒 田上 森和 様(2025.3.30)
S38 年卒 玉井 義人 様(2025.3.1)
S39 年卒 籾 様(2024)
S39 年卒 近藤 紘一 様(2025.6.8)
S39 年卒 斎田 護 様(2025.4.29)
S39 年卒 福本 進繁 様(2024.2.12)
S40 年卒 清水 治郎 様(2024.3)
S43 年卒 後藤 誓士 様(2022.9.8)
S43 年卒 村上 勲 様(2025.2.3)
S45 年卒 山下 隆義 様(2024.1.11)
S46 年卒 山下 彦三郎 様(2014.6.29)
S55 年卒 福田 雅信 様(2024.12.7)
H 7 年卒 松野 泰典 様(2025.2.19)
H12 年卒 林田 純 様(2024.12.5)
S47 年修 岩吉 敬輔 様(2024.9.29)

皆様の ご冥福を心よりお祈り申し上げます

教職員紹介

教員氏名（研究室名）	職 名	近 況
尾上 幸造 （環境建設材料研究室）	教 授	最近の研究と仕事の合間に体力づくりも行い、忙しいながらも充実した日々を過ごしています。
柿本 竜治 （地域公共政策研究室）	教 授	5 月、白川の堤防をランニング中に躓き、人生初の鎖骨骨折。現在もリハビリ中で不自由な日々が続いています。受け身を取ったつもりでも、思うように動けない体に、年齢を重ねたことをしみじみ実感しました。
川越 保徳 （水質環境学研究室）	教 授	最近、2 年生の学生さんから「正義感」という言葉を聞きました。こんな言葉がまだ生きていることに驚くとともに、未来永劫、くれぐれもそんな言葉が悪用されないことを祈る今日この頃です。
佐藤 晃 （深部地下環境工学研究室）	教 授	なんと気がつけば昨年で研究室設立 20 周年でした。訪ねてきてくれる卒業生の方の数もうんと増えました。今年は 21 日目、また新たな気持ちで学生さん達と向かい合いたいと思います。
竹内 裕希子 （地域防災研究室）	教 授	熊本地震から 10 年。その年 4 月に産まれた息子は多くの方々に支えて頂き元気に 10 歳となりました。ありがとうございます。熊助組が挑戦をしたクラウドファンディングに多くの応援をありがとうございました。来年 20 年を迎えます。
張 浩 （河川環境研究室）	教 授	熊大 5 年目を迎え、トップ学術誌への論文掲載やマスメディアを通じた研究発信・社会還元の実績が確実に増えました。今後は、まだ発展途上である OB/OG の皆様との連携強化に一層注力して参ります。
星野 裕司 （景観デザイン研究室）	教 授	今年は、まきろボ 10 周年、研究室 20 周年です。それぞれ、秋にイベントする予定です。みんなに会えることを楽しみにしています。
松村 政秀 （構造システム研究室）	教 授	次回の構力研同窓会は、2027 年 7 月 24 日(土)に開催(予定)です(今年度はお休みです)。ご予約いただければと存じます。海外から学生を受入に力を入れてみています。
円山 琢也 （交通政策分析研究室）	教 授	研究室の学生・スタッフの数が増え、今年は総勢 18 名と過去最大になります。研究の楽しさや各種スキル等を後輩に教えてくれる先輩・スタッフが揃っているのは、大変心強い限りです。
皆川 朋子 （河川/流域デザイン研究室）	教 授	工学部 2 号館前に雨庭を含めた空間整備を他の研究室の先生や学生さんと合同で行っています。8 月の完成が楽しみです。完成したら授業や小中高対象の防災・環境教育にも活用する予定です。
棕木 俊文 （環境地盤工学研究室）	教 授	卒業生の皆さんに支えられ、棕木研は創立 20 周年を迎えることができました。改めて卒業生の皆さんに感謝申し上げます。11 月 21 日(土)に熊本で皆さんに再会できることを楽しみにしています。
石田 桂 （水文研究室）	准教授	米 Lehigh 大での招待講演や Passaic River 流域視察、トルコの中東工科大学での講演など国際的な研究活動を推進しています。大学において国際シンポジウムの主催なども行いました。
伊藤 紘晃 （水質環境学研究室）	准教授	今年は 1 年生担任になりました。立派に育ってほしいのと、少しドキドキはしながら過ごしています。研究の方は分子化学シミュレーションを取り入れ始めまして、変化の年になりそうです。
金 洙列 （海洋海岸工学研究室）	准教授	4 年間の担任をもって、担任の役目を終えることとなりました。1 年生からの 4 年間、OB の皆様に大変お世話になりました。これからも後輩たちの活躍を温かく見守っていただけますと幸いです。
オノ木 敦士 （地下空間工学研究室）	准教授	4 年間にわたる担任業務が終わりほっとしています。今後は、虎穴に入らずんば虎子を得ずではないですが、日本では実行不可能な実験を海外で実施するために色々模索していきたいと思います。
高野 大樹 （地下空間工学研究室）	准教授	大学に戻り 3 年目が始動。昨年はインドから腹を壊さず帰還しました。今年はインド工科大学との共同研究もスタートします。インドにハマっていきそうです。
田中 尚人 （地域風土計画研究室）	准教授	熊大 21 年目を迎える今年は、熊本地震から 10 年の節目の年。3月にこの 10 年を振り返る『間(あわい)のまちづくり学 ゆるやかに結ぶ時間・空間・仲間(農文協)』という著書を出版しました。皆様、ぜひ一読下さい。

2026 年度 熊本大学 蘇遙会情報誌

吉城 秀治 (地域・交通デザイン研究室)	准教授	インターンシップの受け入れにご協力いただき、誠にありがとうございます。 その先の就職活動におきましても、引き続きお力添えのほどよろしくお願い申し上げます。
稲垣 直人 (河川環境研究室)	助 教	ご飯とお酒が美味しいためか、かつてない体重増加を経験しています。着任から丸 2 年が経ち、熊大の教員としての仕事に慣れてきた一方で、私生活には大きな変化の予感があります。
増田 慧樹 (交通政策分析研究室)	助 教	黒髪南キャンパスの最大の魅力は、裏手に流れる白川の河原にあると確信するに至りました。学生さんとふらっと野球やモルックで交流できる環境に感謝しています。(もちろん研究にも励んでいます！)
渡部 慎也 (構造システム研究室)	助 教	今年 4 月に第二子が誕生し、にぎやかな毎日を送っています。人生の先輩である諸先生方からいただいたアドバイスを胸に、仕事と育児の両立に励みながら、どちらにも全力で取り組んで参りたいと思います。

技術部・事務補佐員	友田 祐一	技術専門員	山下 寿子	尾上研究室秘書
	吉永 徹	技術専門員	園山 恵	佐藤、オノ木研究室秘書
	外村 隆臣	技術専門職員	小川 香名子	星野、円山研究室秘書
	上田 誠	技術専門職員	下田 万里	棕木、高野研究室秘書
	橋本 淳弘	技術主任	中島 幸香	皆川研究室研究員
	松木 翔二郎	技術主任	西 智美	金研究室秘書
	横田 裕加里	土木教室事務	藤内 英子	蘇遙会事務局

新任のごあいさつ

増田 慧樹 ますだ さとき (交通政策分析研究室)



2026 年 4 月 1 日付けで熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター地域デザイン部門に助教として着任しました、増田慧樹と申します。私は香川県高松市出身で、2026 年 3 月に東京大学で博士(工学)を取得しました。博士時代には 4 ヶ月間、愛媛県松山市のアーバンデザインセンター(官民学連携のまちづくりセンター)で滞在研究をした経験があり、東京・松山・熊本と、大変烏滸がましくも漱石先生との面白い縁を感じています。ちなみに東京での住まいは夏目漱石旧居跡(猫の家)の真裏にありました(!)。

研究では都市と交通の数理分析を専門としております。災害時の交通渋滞シミュレーションの開発と交通制御の最適化、土地利用変化の予測モデルの開発などの研究を行ってきました。熊本大学では、社会基盤整備-交通渋滞-土地利用-水循環の相互関係の観測・理解・予測に関する研究を進め、熊本のローカルな現象を見つめグローバルな理論に展開していく所存です。

まだ着任して日は浅いですが、熊本大学の積み重ねてきた歴史と文化をひしひしと感じております。自分がその一部となり、学生に伝えていけるよう、研究に教育に励んでいく所存です。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

研究室配属人数および学部 1～3 年生の学生数（2026 年 4 月現在、10 月入学生・社会人ドクター・短期留学生等を含む）

研究室（担当教員）	学部 4 年	修士 1 年	修士 2 年	博士 1 年	博士 2 年	博士 3 年	研究員・他	合 計
環境建設材料研究室（尾上）	4	2	5					11
水質環境学研究室（川越）	3	1	2	1	1			8
深部地下環境工学研究室（佐藤）	4	3	1					8
複合材料研究室（重石）	4		5					9
地域防災研究室（竹内）	4	1	1			1	1	8
河川環境研究室（張、稲垣）	5	3	6				1	15
交通対策分析研究室（円山、増田）	5	3	5	1		1	1	16
河川/流域デザイン研究室（皆川）	4	2	4	1	1		3	15
環境地盤工学研究室（椋木）	4	4	2			1	1	12
水圏物質動態研究室（伊藤）	3	1						4
地下空間工学研究室（オノ木）	4	2	2	1	1	1	1	12
地下空間工学研究室（高野）	4	2		1				7
地域風土計画研究室（田中）	4	4	5		1	1		15
地域公共政策研究室（柿本）	4	2	1			2		9
景観デザイン研究室（星野）	4	4	7		1	1		17
構造システム研究室（松村、渡部）	5	6	2		1	1	5	20
水文研究室（石田）	3	1	2					6
海洋海岸工学研究室（金）	3			1			1	5
地域・交通デザイン研究室（古城）	4	2	2					8
合 計	75	43	52	6	6	9	14	205

学部 1～3 年生の 学生数	1 年	土木建築学科（コース選択前）	118	1 年生は土木建築学科入学生の総数です。2 年進級時に「社会基盤（土木）工学」、「地域デザイン」、「建築学」の 3 つの教育プログラムに分かれます。蘇遙会の学生会員対象となるのは「土木系」の学生であり、社会基盤（土木）工学教育プログラムおよび地域デザイン教育プログラムの学生が該当します。 なお、今年度より「土木工学」は「社会基盤工学」に名称が変わりました。
	2 年	土木建築学科社会基盤工学教育プログラム	37	
	2 年	土木建築学科地域デザイン教育プログラム	21	
	3 年	土木建築学科土木工学教育プログラム	38	
	3 年	土木建築学科地域デザイン教育プログラム	26	
		卒研未着手	21	

◆令和 8 年 3 月 学部卒業生進路【順不同】

国土交通省、警察庁、熊本県、大分県、鹿児島県、佐賀県、熊本市、横浜市、福岡市、北九州市、鹿島建設(株)、西松建設(株)、ショーボンド建設(株)、(株)大林組、(株)東京設計事務所、(株)建設システム、明伸建設コンサルタント(株)、(株)オリエンタルコンサルタンツ、九州建設コンサルタント(株)、中電技術コンサルタント(株)、西日本旅客鉄道(株)、九州旅客鉄道(株)、SOLIZEPAETNER(株)、熊本大学大学院自然科学教育部博士前期課程、その他

◆令和 8 年 3 月 大学院（前期・後期）修了生進路【順不同】

熊本県教育委員会、鹿島建設(株)、ピーエス・コンストラクション(株)、ショーボンド建設(株)、(株)大林組、前田建設工業(株)、(株)横河ブリッジホールディングス、西松建設(株)、清水建設(株)、(株)三菱地所設計、(株)十八測量設計、福岡地所(株)、NTT アーバンバリューサポート(株)、(株)水野建設コンサルタント、(株)建設技術研究所、(株)日水コン、(株)東京建設コンサルタント、(株)NJS、西日本技術開発(株)、(株)地域計画連合、JR 九州コンサルタンツ(株)、(株)福山コンサルタント、中央復建コンサルタンツ(株)、九州建設コンサルタント(株)、宮地エンジニアリング(株)、(株)オリエンタルコンサルタンツ、アジア航測(株)、八千代エンジニアリング(株)、中央コンサルタンツ(株)、九州電力(株)、西日本高速道路(株)、NTT 西日本(株)、ENEOS(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)、熊本大学大学院自然科学教育学部博士後期課程、京都大学大学院情報学研究科博士後期課程、帰国・その他

2026 年度学生部コンセプト

学生部部長 学部3年 甲斐 祐希

「Plus Ultra」

今年度の学生部コンセプトは「Plus Ultra(プルスウルトラ)」です。この言葉はラテン語で、さらなる前進という意味です。学生主体で動くという意志や、学生同士、先輩、地域や学校とのつながりを大切にする姿勢などを受け継ぎ、それだけでなく、さらに拡大させて今までよりもっと多くの学生に蘇遙会について知ってもらい、活動に参加してもらいたいです。それにより土木系の学生のつながりを強くして、みんなが楽しみながらも多くのことを学べる場にしたいです。

新型コロナウイルス感染症の影響で、今まで長い間繋がってきた多くの活動が途切れ、衰退しているというのが現代の多くの場面で見受けられます。これは蘇遙会にも同じことが言えると思います。多くの蘇遙会 OB の方とお話しする機会があり、先輩方の活動の様子は今より盛り上がっていたり、同じ学年だけでなく他学年など縦のつながりも強い印象を受けます。社会においての繋がりの大切さは今も昔も変わらないと考えます。土木系や蘇遙会、工学部全体をコロナ以前のように盛り上げ、これから多くの繋がりができるように励みます。以前は行われていた工学部運動会も今年度からまた行えるように取り組み、工学部他学科の学生とともに活動できたらと思います。来年度以降に繋げていけるような一年間にしたいです。

活動報告

学生部書記 学部3年 上玉利 翔太

新歓イベント「BBQ」

2025年5月23日に、土木建築学科新学部1年生を主な対象として新入生歓迎BBQを白川河川敷で行いました。今回の活動は学部1年から3年までの30人ほどに参加してもらいました。



大学の日々の生活や教育プログラムについての話、他愛もない話も多く見受けられ、今回の活動で他学年同士のつながりができたと考えます。

活動を行う際には告知や準備の仕方などを昨年度の役員の方に教えてもらう機会がありました。今回の活動で反省点も多くあったため、これからの活動に活かしたいと思います。



蘇遙会学生部研修旅行について

今年度も例年通り研修旅行を行う予定です。時期は9月後半を予定しています。毎年行われる規模の大きな活動の一つであり、「蘇遙会」を知ることができると思うので、在学生の皆さん、是非ご参加ください。また、今までの研修旅行の様子は蘇遙会ホームページに載せております。下記 URL からご覧ください。

<https://www.web-dousoukai.com/soyoukai/?cat=9>

2025 年度 研修旅行レポート

2025 年度 学生部 児玉 暁

例年は夏季休業中に実施している研修旅行ですが、当初予定していた日程が荒天に見舞われ、キャンプ場が閉鎖。やむなく延期という苦渋の決断を下すこととなりました。しかし、仕切り直しを経て 2026 年 3 月 5 日・6 日の 2 日間、無事に蘇遙会研修旅行を実施することができました。

今回の目的地は、熊本県上益城郡御船町にある「八勢目鑑橋」です。選定の理由は、約 150 年の歴史を持つ熊本県指定重要文化財でありながら、まだ広くは知られていないこの名橋を、研修という貴重な機会を通じて深く学び、石橋文化への関心を高めてほしいと考えたからです。

スケジュールは一泊二日の行程で行いました。初日は八勢目鑑橋を見学。橋の土台から精巧に積み上げられた石造アーチの造形、そして 150



年という歳月を耐え抜いてきた歴史の重みを肌で感じることができました。参加した学生たちは、最初は石橋に関する知識こそ浅かったものの、その堂々とした佇まいに圧倒され、熱心に写真に収めたり、感じたことをレポートにまとめたりしていました。その真剣な姿を見て、本研修の目的は十分に達成されたと確信しています。

その後は吉無田高原「緑の村」へ移動し、親睦を深める BBQ を開催しました。夜が更けるまで、先輩方から蘇遙会での思い出や将来へのアドバイスなど、貴重なお話を伺うことができ、学年を超えた有意義な交流の場となりました。

二日目はあいにくの大雨となりましたが、車窓から周辺の土木構造物を巡る「遊覧研修」へと切り替え、無事に帰着しました。

今回は春休み期間中ということもあり、帰省などで参加人数こそ

少なめでしたが、「実施すること」自体に大きな意義があったと感じています。今回の学びを糧に、来年、再来年とこの蘇遙会の伝統が途絶えることなく続いていくことを切に願っています。

2025 年度 出前講義レポート

2025 年度 学生部 落合 駿成

12 月 19 日に蘇遙会主催で行われる出前講義が開催されました。この講義では講師として、大手ゼネコン、コンサルティング企業、国土交通省などでご活躍中の熊本大学 OB・OG の方々をお招きし、土木建築分野における仕事の実情やキャリア形成について、具体的なかつ実践的なお話をお聞かせいただくという内容になっており、今回も貴重なお話を伺うことができました。今回の出前講義には大学 2 年生から大学院 2 年生まで 30 人近い人数の学生が集まり、今後の将来への考えを大きく深めることができましたようです。

OB の方々に講義をしてもうった後に、班に分かれてグループワークを行いました。このグループワークでは講師の方々にもご参加いただき、私たち学生の意見に対して様々なことを教えてくださいました。普段の就職説明会などでは聞くことができない話を聞くことができ、非常に良い機会になりました。



また、各講義の後には質問の時間を設け、私たちの疑問に丁寧に答えいただきました。匿名での質問形式であったこともあり、転職や年収、キャリア形成など、普段はなかなか聞きづらい内容についても事前に多くの質問が寄せられていました。講師の方々ガリアルな回答をしてくださったことで、将来について現実的に考えるきっかけとなり、非常に貴重な機会となりました。

さらに、講義終了後に開かれた懇親会では、講義やグループワークなどよりも講師の方々との距離が近いこともあり、講義の際に聞けなかったことや現場で働く先輩方の率直な意見などをじっくり聞くことができました。懇親会には主に 2、3 年生が多く参加しており、これから進路

を決めていく中で大きな影響を受けている様子が見られました。出前講義を通して、土木技術者に関する理解を大きく深めることができ、とても良い経験をすることができました。

就活体験記

※この記事内容は 2026 年 7 月時点のものです。

学部 4 年 児玉 暁

私は、大学卒業後の進路として、「就職」を選びました。

大学院へ進む同期が多い中、院進という選択肢も無かった訳ではありません。しかし、インターンシップ講演会や出前講義を受け、様々な業種の活動を聞く中で、自らのしたいことを見つけ、早い段階でその業界に身を置き、成長したいと考え決断に至りました。

学部 2 年の段階では、就活に関する情報が少ないことに加え、自身のしたい事や業界の違いなどの理解が浅かったため、具体的な就活はしていません。学部 3 年になると出前講義やインターンシップ講演会など、発注者・ゼネコン・コンサルなど多くの会社を知る機会が増えました。また、講義の終わりにはインターン情報も紹介してくれるので興味がある会社には比較的容易にインターンに応募することができました。

私は、コンサルとゼネコンがどちらの方が自分に合っているかを確かめるためにそれぞれ 1 社ずつ体験しました。そこで、コンサルの方により魅力を感じ、1 次面接・2 次面接を経て、年内に内々定をもらうことができました。

就活を通して伝えたいことは、「与えられる会社の情報はあまり重要ではない」ということです。インターンシップなどで実際に会社に赴き、雰囲気も含めた「自らの五感で得た会社の情報」が重要なのであり、その情報をもとに会社を選定することがミスマッチを防ぐためにも大切だと感じました。

最後に、院進でも就職を選んでも、就活することは必要だと思います。院に進んだとしても 1 年後には就活をしなければならないので、時間の無駄になることはないです。なにより、自分のことや業界のことをより深く知るいい機会です。皆さんも大学生という特権をフル活用して知見を増やし、将来について少し考えてみましょう。

学部 4 年 古賀 蒼大

私は大学院への進学と就職のどちらを選ぶべきか最後まで悩んでいました。大学でも研究を続けて専門知識を深めたいという気持ちがある一方で、早く社会に出て実務を経験したいという思いもあり、なかなか進路を決めることができませんでした。

そんな中、大学の 1 つ上の先輩に相談したところ、その先輩の紹介で企業のリクルーターの方とお話する機会をいただきました。実際に会社のことや仕事内容、働き方などを詳しく教えていただき、不安だったことや疑問に思っていたことも丁寧に答えていただきました。その話を聞く中で、その企業に興味を持つようになり、インターンシップに参加することを決めました。

インターンシップでは、実際の業務を体験できただけでなく、社員の方々と直接話す機会も多くありました。特に印象に残ったのは、社員同士の距離が近く、分からないことがあれば気軽に相談できる雰囲気があったことです。また、若手社員の意見もしっかり聞いてもらえる風通しの良い職場だと感じました。仕事内容にもやりがいを感じましたが、それ以上に「このような環境で働きたい」と思えたことが、就職を決める大きな理由になりました。

就職活動を進める中で感じたことは、大学院への進学を考えている人でも、一度は就職活動を経験した方がよいということです。企業説明会やインターンシップに参加することで、さまざまな企業の考え方や仕事の内容を知ることができ、自分がどのような働き方をしたいのかを考えるきっかけになりました。また、企業の方や先輩社員と話すことで、自分では気付かなかった強みや課題を知ることでもできました。

私は就職活動を通して、多くの人との出会いや経験が自分の進路を決める大きな後押しになったと感じています。特に先輩に相談したことでリクルーターの方とつながることができ、その出会いが最終的な進路選択につながりました。改めて、人とのつながりの大切さを実感しました。

これから進路を考える人は、大学院進学か就職かに関係なく、まずは就職活動やインターンシップに積極的に参加してみることをおすすめします。実際に企業を訪れ、社員の方と話すことでしか分からないことも多くあります。その経験は、最終的にどちらの進路を選んだとしても必ず自分の成長につながり、納得のいく進路選択ができると思います。